

浅間山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

<噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ>

浅間山では火山活動が高まっており、今後、山頂火口から概ね2 km の範囲に影響を及ぼす小噴火の可能性があります。このため、本日（23 日）16 時 00 分に火口周辺警報（火口周辺規制）を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引き上げました。

防災上の警戒事項等

山頂火口から概ね2 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

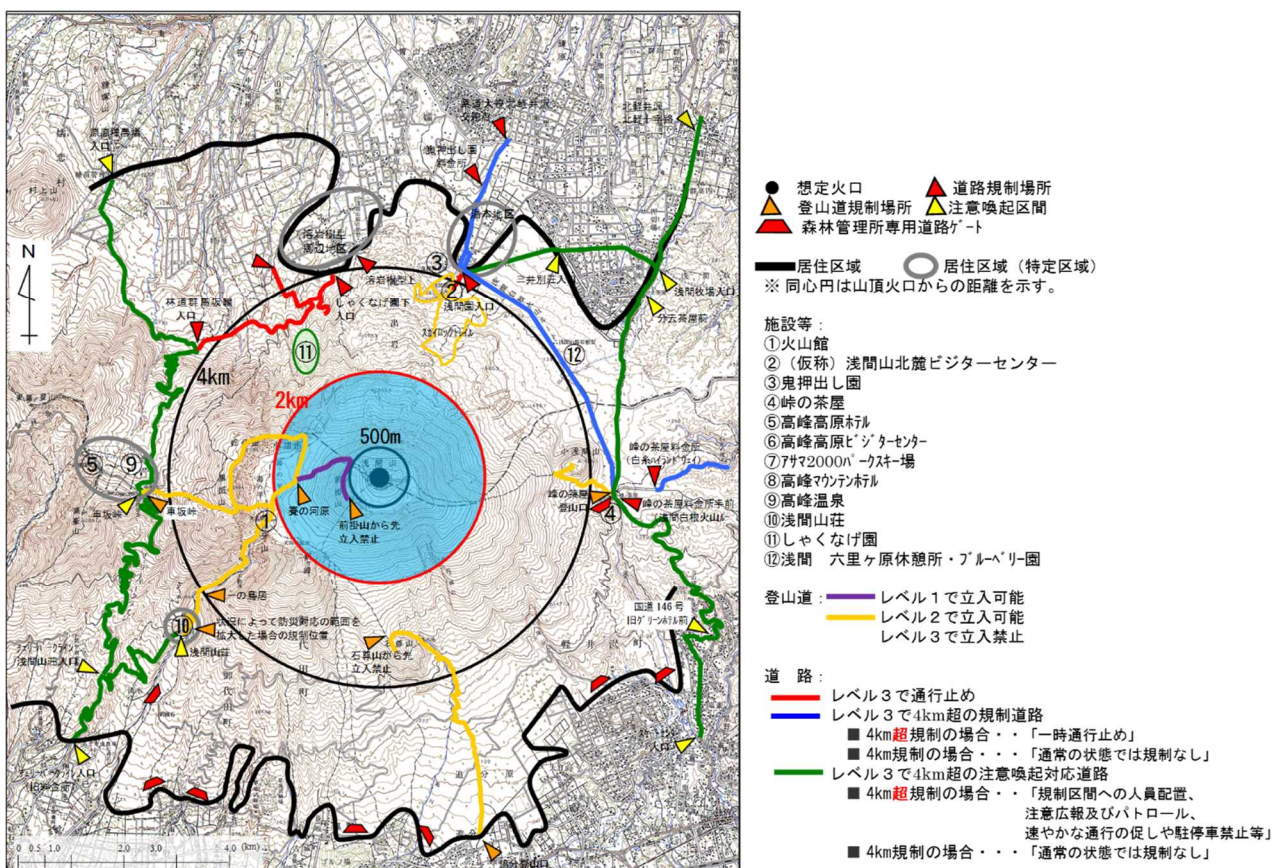


図1 浅間山 噴火警戒レベル2に対応した規制範囲（赤円内：山頂火口から 概ね2 km の範囲）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act/doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>
この資料は気象庁のほか、関東地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び長野県のデータも利用して作成しています。
資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

○活動概況

浅間山では、15日頃から、浅間山の西側での膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動が認められています（図3、図4⑥）。また、20日以降、山体浅部を震源とする火山性地震が増加しており、本日（23日）に入ってからさらに増加しています（図2、図4③）。

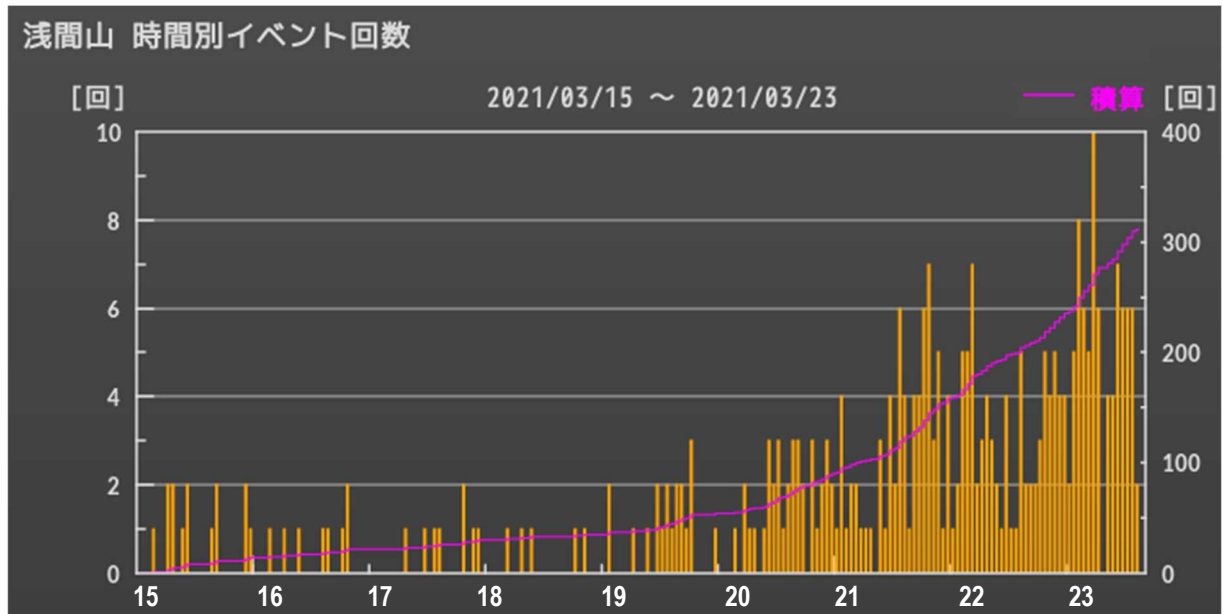


図2 浅間山 時間別地震回数（2021年3月15日～2021年3月23日15時）

- ・ 20日以降、山頂浅部を震源とする火山性地震が増加し、本日（23日）に入ってからさらに増加しています（21日68回、22日77回、23日15時まで77回）。

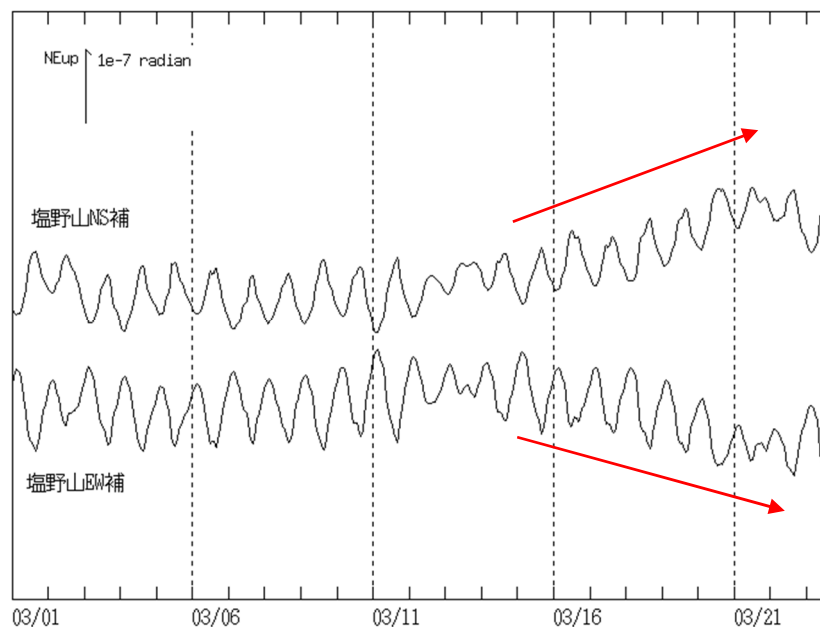


図3 浅間山 塩野山観測点における傾斜データ（2021年3月1日～2021年3月23日15時）

- ・ 15日頃から、山頂の南側に設置した傾斜計において、浅間山の西側での膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動（図中赤矢印）が認められています。

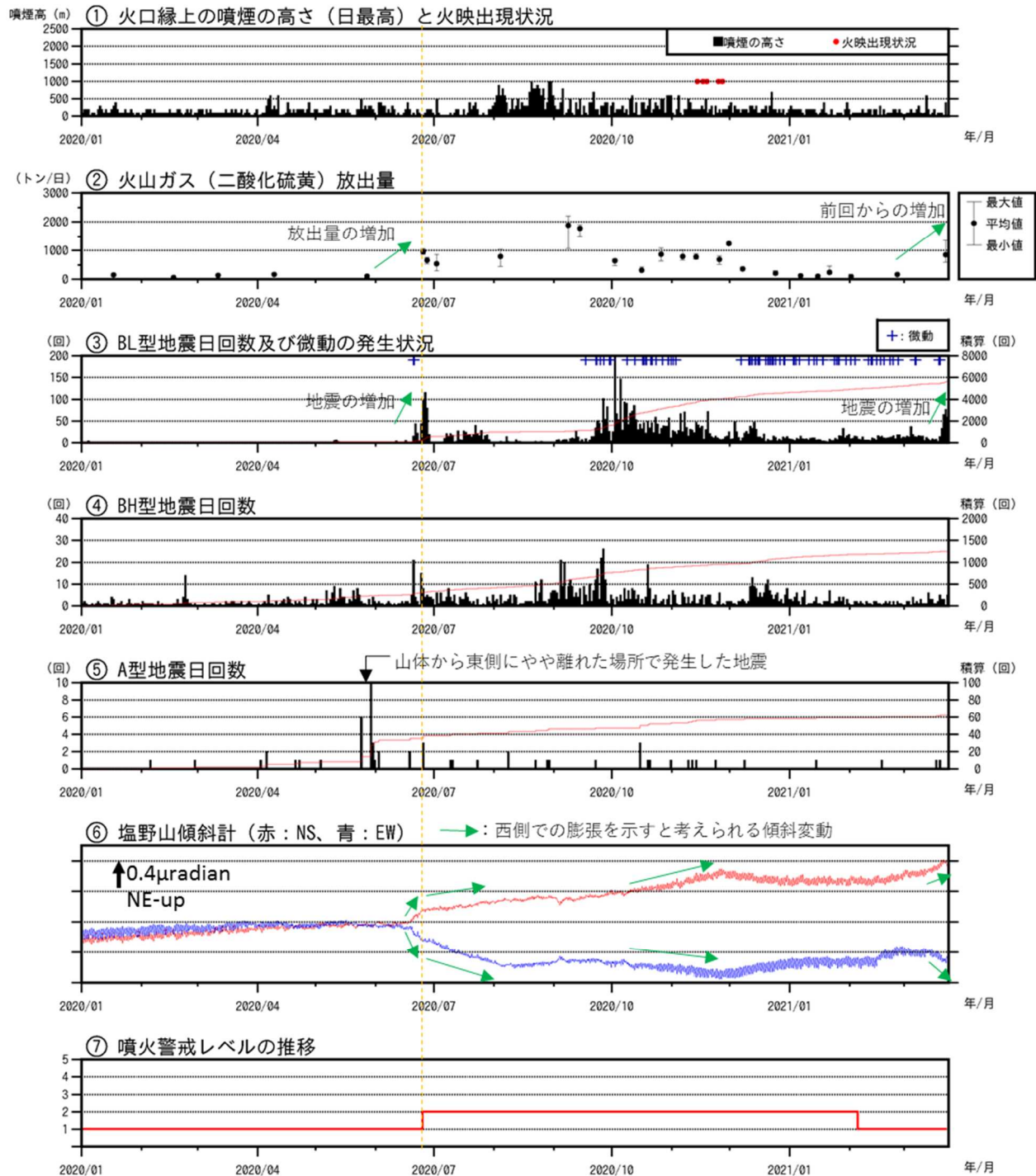


図4 浅間山 火山活動経過図（2020年1月1日～2021年3月23日15時）

- ・22日に実施した火山ガス観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は一日あたり800トンと多い状態でした。
- ・わずかな傾斜変動と地震増加が観測されているなど、昨年6月のレベル引き上げ時（橙点線）と似たような状況にあります。

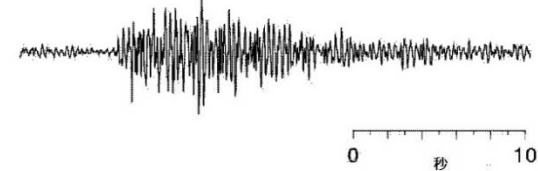
A型地震：P,S相が明瞭で卓越周波数は10Hz前後と高周波の地震



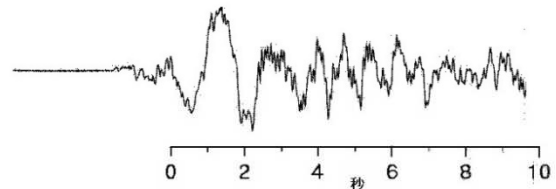
BL型地震：P,S相が不明瞭で卓越周波数が約3Hz以下の地震



BH型地震：S相が不明瞭で卓越周波数が約3Hz以上の地震



EX型地震(爆発型)：爆発的噴火に伴って発生する地震



BT型地震：一定周波数の振動がゆっくりと減衰していく地震

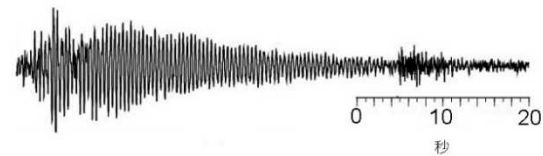
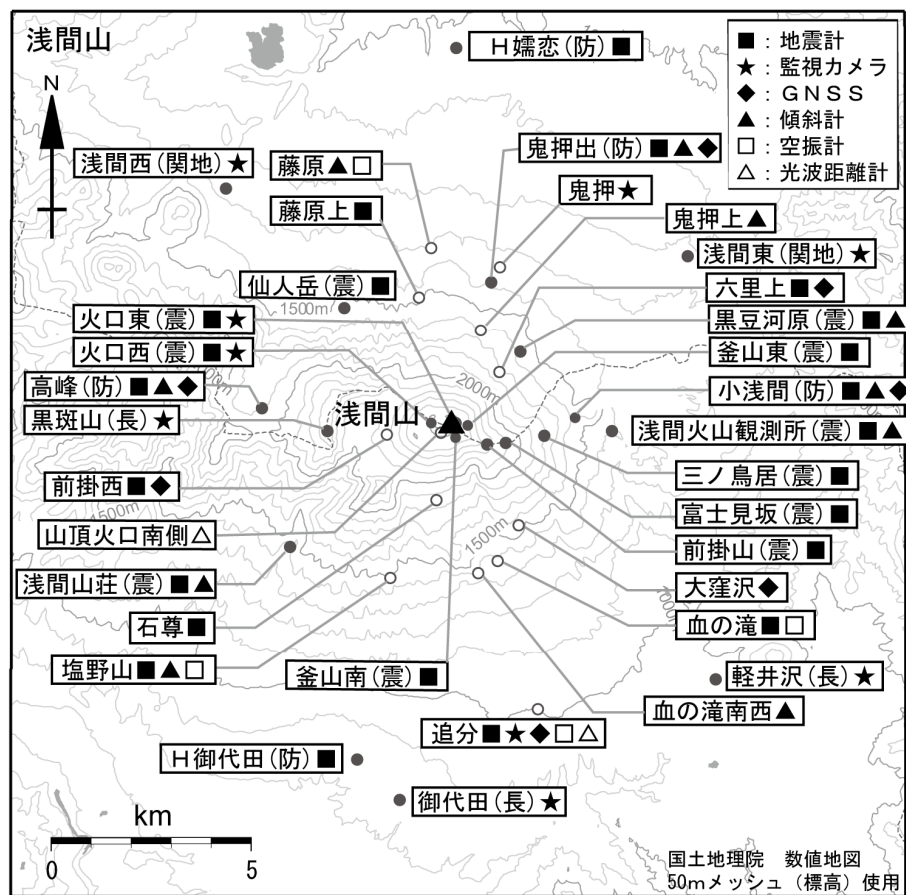


図5 浅間山 主な火山性地震の特徴と波形例



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、
(関地)：関東地方整備局、(長)：長野県

図6 浅間山 観測点配置図